

よくわかる！

**病害虫防除
マニュアル
ねぎ編**

そーだ、
にほんそーだに
そーだんしょう！



日本曹達株式会社

育苗期後半から生育初期の防除が大切。ねぎ 作りに、日曹の製品がお役に立ちます。

[] RACコード

土壌病害・センチュウには…

キルパー®

使用回数／1回



適用病害名など	使用量(原液として)	使用方法	使用時期
白絹病、一年生雑草	40ℓ/10a	※C	※a
根腐萎凋病、一年生雑草	60ℓ/10a	※A	
黒腐菌核病		※B	
黒腐菌核病		※A・C	
古株枯死	40～60ℓ/10a	※B・D	※b
アザミウマ類蔓延防止	40～60ℓ/10a	※B	
	60ℓ/10a	※D	
クロバネキコバエ類蔓延防止	40mℓ/m ²	※E	※c

※A 散布混和・所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。 ※B 希釈散布/灌水:あらかじめ被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布または灌水する。 ※C 注入:所定の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し、直ちに被覆または覆土・鎮圧する。 ※D 所定量の薬液を水で希釈し、土壌表面に散布または灌水する。 ※E は場内に集積した残渣物に所定量の薬液を散布し被覆する。

※a は種又は定植の10日前まで。 ※b 前作の栽培終了後から残渣撤去まで。但し、は種又は定植の15日前まで。 ※c 集積後からは、種又は定植の15日前まで。



育苗期の害虫には…

カルホス® 粉剤

(1B)



適用害虫名	使用量	使用時期／使用回数	使用方法
ネキリムシ類	6kg/10a	は種時または植付時/2回	土壌表面散布 土壌混和处理

カルホス® 微粒剤F

(1B)



適用害虫名	使用量	使用時期／使用回数	使用方法
ネキリムシ類	6kg/10a	は種時/1回 植付時/1回	土壌表面散布 土壌混和处理

ネキリエース® K

(1B)



適用害虫名	使用量	使用時期／使用回数	使用方法
ネキリムシ類	3kg/10a	30日/2回	土壌表面 株元処理

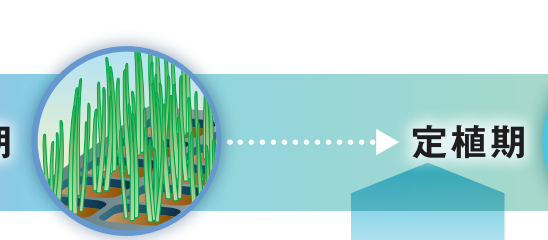
◎薬剤使用の際は、登録内容を確認の上、登録使用基準を遵守してください。
◎本資料は、2026年8月現在の登録に基づいて作成しています。

バスアミド® 微粒剤

使用時期／は種または定植14日前まで
使用回数／1回



適用病害虫名など	使用量	使用方法
黒腐菌核病	30～60kg/10a	所定量を均一に散布後土壌と混和
紅色根腐病 ネギハモグリバエ	30kg/10a	
白絹病、萎凋病 小菌核腐敗病 根腐萎凋病 ネコブセンチュウ 苗立枯病(リゾクトニア菌) 一年生雑草	20～30kg/10a	



モスピラン® 粒剤

(4A)



適用害虫名	使用量	使用時期／使用回数	使用方法
ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	0.25～0.5g/株	定植前日～定植当日/1回	株元散布*
	6kg/10a	は種時/1回 植付時/1回	播溝土壌混和 植溝土壌混和*

アベイル® 粒剤

(4A、28)



適用害虫名	使用量	使用時期／使用回数	使用方法
ネギアザミウマ ネギハモグリバエ シロイチモジトウ	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊当り*40g	育苗期後半～定植当日/1回	株元散布

ベリマーク® SC

(28)



ベリマークSCは、生育期の本圃での灌水処理も可能です。敵の表層に向かって伸びているねぎの根をめがけて、敵全体に灌水処理を行ないます。

適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期／使用回数	使用方法
タマネギバエ タネバエ	400倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊当り=0.5ℓ	育苗期後半～定植当日/1回	灌水
シロイチモジトウ ハモグリバエ類 アザミウマ類 ネキリムシ類 ネギコガ	2000倍	0.5ℓ/m ²	7日/1回	株元灌注

※:約30×60cm、使用土壌約1.5～4ℓ

生育期の病害には…

ベルコート

ファンタジスタ

ピシロックフロアブル

ベトファイター

トップジンM

ハモメイト

ストロビー

フルピカ

生育期の害虫には…

適用害虫名	製品名	希釈倍数 または使用液量	使用時期／ 使用回数	その他の適用害虫
アザミウマ類	モスピラン顆粒水溶剤(4A)	2000倍	7日/3回	—
	アクセルキングフロアブル(21A、22B) (ネギアザミウマ登録)	1000倍	7日/2回	ネギコガ
シロイチモジトウ	フェニックス顆粒水和剤(28) ※2	2000～4000倍	7日/3回	ネギコガ
	ロムダンフロアブル(18)	2000倍	7日/3回	—
	アクセルキングフロアブル(21A、22B)	1000倍	7日/2回	ネギコガ

※2 無人航空機登録あり

TOPIC 1

萎凋病は、「トリフミン水和剤」の苗根部浸漬、または苗床灌注でしっかり防除しましょう。

トリフミン® 水和剤 (3)

①50倍 定植直前／1回／5～30分苗根部浸漬
②100倍・200倍 定植前／1回／苗床灌注
なお、散布液量はセル成型育苗トレイ1箱または、ペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約5ℓ) 当り100倍は0.5ℓ。200倍は1ℓ。

萎凋病・小菌核腐敗病の防除は、「トップジンM水和剤」の苗根部浸漬または苗床灌注で。

トップジンM® 水和剤 (1)



※希釈倍数：使用時期／使用回数／使用方法の順

TOPIC 2

一年生イネ科雑草の防除なら、登録作物にかかっても影響のない「ナブ乳剤」で!

ナブ® 乳剤 (1)

使用量(3～5葉期)／150～200mℓ 散布液量／100ℓ/10a
使用量(6～8葉期)／200mℓ 散布液量／100～150ℓ/10a
使用時期／30日 使用回数／1回



TOPIC 3

ねぎの登録で、わけぎ、あさつきには使用できません。ねぎ、あさつき、わけぎは別の作物として登録されています。

ねぎ わけぎ あさつき

鱗茎類(根物)には、たまねぎ、にんにく、らっきょうなど、鱗茎類(葉物)には、あさつき、にら、ねぎ、わけぎなどが含まれます。





ねぎ病虫害図鑑

病 害

【萎凋病 *Fusarium oxysporum* f. sp. *cepa*】

病原菌は厚膜孢子で土の中に残り、土壌伝染する。下葉が湾曲、黄化、萎凋する。被害株は茎盤部が褐変している。育苗期から移植後60日の間に多く発生し、収穫期の発生は少ない。



下葉が黄化、萎凋 茎盤部が褐変 茎盤部が紫色に変色 葉鞘が楕円形になる

適用薬剤 バスアミド微粒剤、トリフミン水和剤 など

【さび病 *Puccinia allii*】

病原菌は、葉についたまま越冬し、翌年春にそこから胞子を飛散して伝染する。真夏には病斑が見られなくなるが、枯死株などに付着した病原菌が秋の発生の伝染源になる。葉にさび色の楕円形病斑を生じる。



発病葉 発病葉 (病徴が進展) 葉の病斑 (初期) 葉の病斑 (中央部が縦に裂け、胞子を飛散する)

適用薬剤 ストロビーフロアブル、ハーモナイト水溶剤 など

【べと病 *Peronospora destructor*】

病原菌は、葉についたまま越冬し、翌年春にそこから胞子が飛散して伝染する。葉の表面が灰色～黒色のビロード状のかびで覆われ、紡錘形の大型病斑ができる。



白色病斑 初期病斑 病斑 (黒いかびが見える!) (葉が黄化)

適用薬剤 ビシロックフロアブル、ベトファイター顆粒水和剤

【黒斑病 *Alternaria porri*】

圃場に残った発病葉上の病原菌が伝染源となる。次期作では、そこから胞子が飛散して伝染する。葉に淡紫色の大型楕円病斑を生じ、後に黒色の同心輪紋状病斑となる。



発病葉 初期病斑 病斑 (同心輪紋状のかび) 分生子は尖って見える (長さ0.1mm)

適用薬剤 ベルクート水和剤 など

【葉枯病 *Stemphylium* sp. など】

圃場に残った発病葉上の病原菌が伝染源となる。葉に赤紫色の紡錘形病斑を生じる。



赤紫色の紡錘形病斑 発病葉 発病進展葉 病斑拡大

適用薬剤 ファンタジスタ顆粒水和剤 など

【小菌核腐敗病 *Botrytis squamosa*】

土壌に残った菌核が伝染源となる。次期作では、そこから胞子が飛散して伝染するとともに、菌糸が伸長して伝染する。葉鞘軟白部に淡黄色の病斑を生じ、病斑部を中心に縦に亀裂する。病斑上に長さ2～4mmの黒色菌核が形成される。



葉鞘に小菌核を形成 土を除くと葉鞘部に小菌核が見える 外葉が枯れ上がる 表皮裏の菌核 (長さ2～4mm)

適用薬剤 トップジンM水和剤、フルビカフロアブル など

害 虫

【カブラヤガ(ネキリムシの一種) *Agrotis segetum*】

幼虫による地際部の茎の食害。年3～4回発生し、幼虫の状態で越冬する。



幼虫と食害痕 食害痕拡大 蛹 (体長21mm) 成虫 (前翅長22mm)

適用薬剤 ネキリエースK、カルホス微粒剤F など

【ネギコガ *Acrolepiopsis sapporensis*】

幼虫による葉の食害。初期には小白点や蛇行した線状の白斑が現れ、食害がすすむと白く太い筋になる。年間約10回発生し、春と秋に発生が多い。



幼虫の食害痕 幼虫 (体長9mm) 蛹化中 (体長7mm) 蛹 (体長6mm) 成虫 (前翅長6mm)

適用薬剤 フェニックス顆粒水和剤、アケセルキングフロアブル など

【ネギハモグリバエ *Liriomyza chinensis*】

幼虫による葉肉の食害。ネギコガの食害痕と似ているが、ネギコガのものは太く、短く直線的であり、不規則な線状にならない。

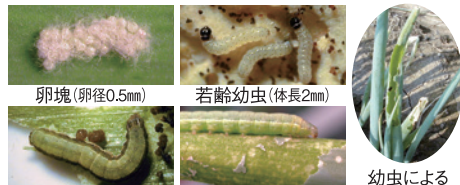


幼虫による被害葉 成虫 (体長2mm) 成虫の摂食痕及び産卵痕

適用薬剤 モスピラン粒剤、アベイル粒剤 など

【シロイチモジヨトウ *Spodoptera exigua*】

幼虫が葉の狭い隙間に潜り込み、その内部から葉を食害することが多い。年4～5回発生する。個体数が多いのは8月以降。幼虫は土中で蛹になる。

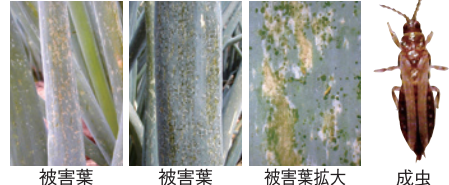


卵塊 (卵径0.5mm) 若齢幼虫 (体長2mm) 中齢幼虫 (体長17mm) 老齢幼虫による食害 幼虫による被害葉

適用薬剤 ロムダンフロアブル、アケセルキングフロアブル など

【ネギアザミウマ *Thrips tabaci*】

幼虫及び成虫が葉の表面を舐めるように食害。食害痕はかすり状の白斑となる。一般に夏季は淡色系、冬季は暗色系の個体が多い。



被害葉 被害葉 (かすり状の食害痕) 被害葉拡大 成虫 (体長1mm)

適用薬剤 ベリマクSC、アベイル粒剤、モスピラン顆粒水溶剤 など

【ネギアブラムシ *Neotoxoptera formosana*】

幼虫及び成虫の葉の吸汁により葉の黄化や生育抑制を生じる。また、ネギ萎縮病ウィルスを媒介する。5～6月、10～11月に発生が多い。



幼虫 (体長0.6mm及び1.2mm) 成虫 (体長1.8mm) 葉に寄生したネギアブラムシ 寄生株

適用薬剤 モスピラン顆粒水和剤、アベイル粒剤 など

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届くところには置かないでください。



日本曹達株式会社

〒100-7010 東京都千代田区丸の内二丁目7番2号

お問合せ (03)4212-9655

(平日9～12時、13～17時、土日祝日を除く)



HPIはこちら



LINE公式
アカウント